

この世界にはエドがない。
ない。

坂井実

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

俺はある夢を見る。それはエドワード・エルリックに会う夢だった。

目次

この世界にはエドがない。 | 1

この世界にはエドがない。

俺は夜、寝る事にした。

そこに鋼の錬金術師の漫画を置いて。

「おい、起きろー！」

と揺られて目を開けると…そこには金髪のみつ編み、

鋼の腕に脚、おまけに銀時計があつた。

「此処は…?」

と問う。すると…

「何、寝ぼけた事言つてんだ。…此処はリゼンブルだぜ！」

と答えられ…

「う、うわあああ!!」

と言つて目を覚ますと、そこはいつもの寝室、何事もなかつたかの様に、日常が始まる。

だが、ある事に気付く。

これは当然の事なのだが…

《この現実世界にはエドワード・エルリックはいない!》

∴

∴

∴

それからあっさりと時が流れた。

かつて小さな僕も成長し、今となつては、仕事を任せられる様になつた。

もうすっかりあの日の事は忘れている。

「おい、そこのお前。」

∴あれ?あの人は?

「人をジロジロ見るなよ。∴ところでニホンは何処だ?」

と聞く金髪のその人は、年老いてはいるが、エドワード・エルリックさんだ!

「ええと、此処がニホンですよ。」

と丁寧と話すと

「∴ありがとな。」

と言つて去つていった。

今、世界の何処かでエドワード・エルリックさんがいる。

それは本人ではないかもしれないし、表面上の物だ…と言ってしまいう人もいるかもしれない。何もかもが真実であるとは述べる事は出来ないのだ。

だが、全てを否定するのはあまりにも一方的じゃないか！
けど、信じるには少し足りないのかも。

んでその後、エドワード・エルリックさんに質問してみた。

「貴方はこれからどうするんですか？」と。

彼はケーキにフォークを入れようとしたが、イチゴが上手く挟まらず…不意に「家族とのんびり暮らす。色々と気掛かりな事もあるけどな。」

と…

家族の事を考え、次に起こるものに備え、どんな状況に置かれたとしても、自分の力で乗り越える。

まさに理想的な人じゃないか。

「この世界で戦いが起きた時は？」
思わず聞いてしまった。

ガタッ！

と音を立てたかと思うと…

「それでも俺は逃げねえ、必ず戦いを止めてみせる！」

と、まさに理想的な回答をした。

「それでこそだ。やっぱり僕は貴方の考えに賛同したい。」

と思わず口にしてしまった。

「…へへッ」

と笑った。

「…さてと、そろそろ行くこうか。」

と言って僕は、ニホンへ向かった。

そして二人は、また新しい時間を歩み出した。

いつかきつと、この世界の平和を取り戻す。

その為には、まず話し合いの椅子につかねばならなかった。

どれだけ長い月日かけたとしても

必ず成し遂げなければならぬ事があるからだ